# 平成 28 年度水産研究成果情報

課題名：被覆網の敷設によるアサリの保護効果の検証

[背景・ねらい]

近年、アサリ資源は低迷しており、その一因としてエイ類による食害の影響が疑われている。そこで、太良町地先の多良川及び糸岐川河口干潟において、8 節（最大目合：約 42mm）のポリエチレン網を被覆することによるアサリの保護効果を検証した。

[成果]

多良川河口干潟では、被覆網敷設区（以下、被覆網区）全体の生息重量は、対照区の約 5.5 倍であった（図1）。また、全体の生息重量に占める殻長 30mm 超のアサリの割合は、対照区で 14.8%、被覆網区で 56.6%と、対照区に比べ被覆網区は、約 3.8 倍であった。

糸岐川河口干潟では、被覆網区全体の生息重量は、対照区の約 1.6 倍であった（図2）。また、全体の生息重量に占める殻長 30mm 超のアサリの割合は、対照区で 79.6%、被覆網区で 83.6%と、対照区に比べ被覆網区は、約 1.1 倍であった。

このように被覆網区では、対照区に比べ、単位面積あたりの生息重量が大きい上、全体の生息重量に占める殻長 30mm 超のアサリ（漁獲対象サイズ）の割合が、対照区より高いことが確認された。このことから今後、アサリを安定的に漁獲するためには、被覆網の敷設による保護が重要であると考えられた。

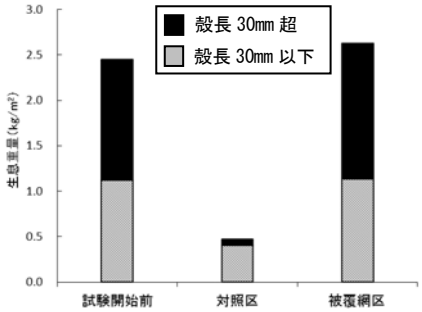


図１　多良川河口干潟のアサリの生息重量

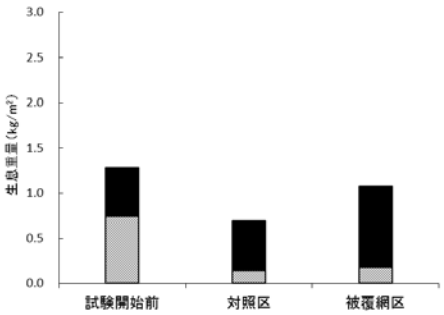


図２　糸岐川河口干潟のアサリの生息重量

[課題・問題点]

・引き続き被覆網敷設効果の検証を行う必要がある。
・漁獲する前の被覆網の撤去作業に多大な労力がかかっている。

[今後の対応]

・引き続き被覆網敷設効果の検証を行うとともに、より撤去が容易にできる被覆手法の開発を行う。

[その他]

研究期間：　平成 27 年～

研究担当者：資源研究担当　神﨑　博幸、佃政則、普及担当　津城啓子